
天使を狩る者—エンジェルハンター—

晴香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天使を狩る者―エンジェルハンター―

【Nコード】

N9230A

【作者名】

晴香

【あらすじ】

世にはびこる天使達を狩る悪魔“エンジェルハンター”…この物語は彼らの激闘の記録である…―

第一戦 オレ等の仕事と世の中の誤解（前書き）

駄文です（汗）故に、不快な思いをされる方もいるかもしれませんが：そういう方は読むのを止めて下さい。全然平気／＼ってな人は大歓迎です！どうぞ見ていってください。

第一戦 オレ等の仕事と世の中の誤解

世の中、悪魔は悪者、天使は良い者と言うイメージが強い。
つーか、それしかないだろ？

でもなあ、実はその逆。

天使が悪者、悪魔が良い者。

何故かつつーと、天使の中で一番偉い：神が今、とんでもねエ事をしようとしている。

それはなあ：

“この世から人を消そうとしている。”

天使達に命令してまだ寿命を迎えていない人間の魂を奪って殺す。

簡単に言えば、人間全ての魂を奪い、人間界を我が物にしようとしている。

さあ大変。

てなわけで、オレ等悪魔は、そんな天使達を狩る仕事をしている。

通称、エンジェルハンター。

エンジェルハンターは人間界に住み込みで、天使を狩っている。

オレ等悪魔は何人かでチームを作り、探偵みたいな感じで人間界に

住んでいる。

オレのチームは、まずリーダーのオレ、サナダヤミトキ真田闇時。

副リーダーの深羽シンバゼンイチロウ禅一郎。

団員、雪山斬飛、篠部孝泰、ユキヤマザント阿部空牙刃アベアゲハの5人で結成されている。

オレの能力は魔術。

深羽は剣。

雪山は銃。

篠部は弓。

阿部は魔獣召喚。

それぞれが得意な能力を持っている。

そんな俺たちは今日も、人間を守るために、天使達と戦っているのだ。

ほら…

また誰かの命が危険に曝されている。

真…

「みんな行くぜ!!」

全…

「おう!!」

お前の好きにはさせねエゼイ?

神様よお。

《
続
く。
》

第一戦 オレ等の仕事と世の中の誤解（後書き）

第一話☆突発的に思いついたこの作品。この後が心配です；ちなみに主役の真田クンは馬鹿です。設定で絶対馬鹿がいいっ！と思ったので：ま、どうでもいい話はもういいっスね。ではまた次回で会いましょう！

第二戦 お仕事

真..

「待てエエエ!!」

今、俺たちは、狩り（ハント）の真っ最中。

ターゲットは、3歳の女の子の魂を連れていこうとしたロリコン天使。
（真田曰く）

真..

「はぁ、はぁ...全然...追い付かねーじゃねーかよオ!!」

阿..

「真田煩い。喋る暇あったら、スピード上げろや。」

ヤクザのような口調でリーダーに言い放つ女団員、阿部空牙刃。

真..

「阿部お前...女の子がそんな口の聞き方しちゃ、メッ!!」

“バキィ!”

阿..

「くだらねエ事言っていないで早く捕まえろ。」

阿部から右ストレートを食らった真田の顔は赤く腫れ上がっている。

本当にこいつはリーダーなのか？

深..

「真田、ターゲットが止まったぜよ。」

深羽が向こう側を指差しながら、真田にそう言った。

真..

「ぬう！？あ、ホントだ。」

篠..

「何かあったのか？」

雪..

「何もなかったら止まらないっスよ。」

全員で会話をしていたら、天使がバサッと翼を広げ、空に飛び上がった。

深..

「相次逃げる気じゃな！」

阿..

「大丈夫。逃がしはしない。」

阿部はそう言うのと、右手の包帯を解いた。

包帯の下からは、大きな蝙蝠のマークが現れる。

阿..

「我に仕えし魔の獣よ、汝の姿、ここに現されよ！！！」

“カァァ!!”

蝙蝠のマークが強い光を出す。

阿..

「あ奴を捕らえよ!蛇牢!!」

“ズルツ”

光の中から巨大な黒い蛇が姿を現した。

蛇..

「フシュー…シャー!!!!」

蛇は体を一度縮め、一気に伸ばして空に居る天使に向かって飛んだ。

“ビュルビル!!”

天..

「ぬぁお!?!」

蛇は天使に巻き付いた。

しかし、天使も負けじと翼をはばたかせ、空に逃げようとする。

阿..

「チツ…諦めの悪い奴め…蛇牢!石化だ!!」

蛇..

「フシュー。」

“ペキペキペキ…”

天使に巻き付いた蛇は、体を徐々に石に変えてゆく。

天..

「ぐ…うわー!!」

等々天使も力尽き、地上に落ちてきた。

“ドサア!”

阿..

「よし。行くぞ。」

全..

「(やっぱりこいつ怖い…)」

全員、天使の落ちた場所に向かい走った。

真..

「めーっけ！」

しばし、走ったら、天使を見つけた。

まだ逃げようと藻掻いている。

深..

「往生際の悪い奴じゃのう。」

篠..

「まったくそうっスね。」

雪..

「いい加減諦めろ。」

三人に言われても尚、天使は逃げようと藻掻く。

阿..

「はぁ...；真田、あんたの出番だ。強制的にアッチへ送ってやれ。」

真..

「よっしゃ！やっとリーダーらしい所が見せられるぜ！」

阿..

「無駄口叩いてないで、さっさとする。」

真..

「はい；」

真田は左手を地面に付けて、目を瞑る。

真..

「生きるべき者の魂魄を奪おうとする者よ、己が罪、しかと受けとめ、罰を受けよ！

地獄流し！！」

“グアパア…”

天使の下に大きな穴が現れた。

天..

「ひ…うわああー！！」

天使はその穴に落下いていった。

真..

「よし、任務完了♪帰ろーぜエ。」

阿..

「ああ。」

深..

「そうじゃの。」

篠..

「あー、雑煮食いてー。」

雪..

「なんでだよ。」

今日のお仕事も、無事解決いたしました♪

《続く。》

第二戦 お仕事（後書き）

二話二話〜☆女性団員男みてーだあ…次回も見てくださいね。

第三戦 生きる事

真..

「ふんふふ〜ん♪今日はシチューを作りましたよ〜♪」

買い物袋を持ってルンルンで歩いていく雑用係真田さん。

あんたはきつとりリーダー向けな人ではない（爆）

真..

「ふう〜ふふ〜♪……ん？」

何かを見つけて立ち止まる。

目を凝らしてよく見たら…

真..

「!?!」

ビルから人が飛び降りようとしていた。

真..

「（マズイなあ…只でさえ人の魂が奪われてるっつーのに…自殺なんてアホじゃねえのか!?!）」

“パチン”

真田は、両手を合わせた。

真..

「我が身天高く上れ…」

小声で呟くと、真田の体がシュン、と消えた。

“スタツ”

消えた真田はビルの上に現れる。

瞬間移動である。

真..

「オイお前！自殺なんて止めろイ！！」

女..

「！！」

女は驚いて振り向いた。

女..

「あ、貴方誰？」

真..

「オレは真田闇時！通りすがりの主婦夫です。」

女..

「????？」

超意味不明な自己紹介に女は不思議そうな表情を浮かべる。

真..

「お前自殺しようとしてんだろ？止めとけよ。自殺したって良い事ねえぜ。」

買い物袋を端っこに置いて、女に言う。

女は表情を曇らせた。

女..

「確かに自殺しても良い事はないかもしれない…でも少なくとも今よりはいいわ！今の私は…上司や同僚にいじめられて…親にも見離されて…帰るところなんて何処にもないのよ！！」

女の話が無表情のまままで聞く真田。

女..

「わかったらもうほつといて。私は今から死ぬの。」

真田に背を向けて、女は足を前に進めていく。

真..

「そっか。なら死ねよ。」

女..

「！」

女の足が止まった。

真..

「死にたいんだろ？死にゃあいいじゃねえか。もう止めねえよ。死

ねよ。」

冷たい目で見下すように、真田は女に言う。

女は目を伏せて、涙を流した。

真..

「ほら、死にたくねえだろ？」

女..

「え...？」

真..

「お前今泣いてんじゃん。死ねって言ったら、悲しくなっただろ？それはお前が死にたくないって思ってる証拠だ。」

さっきとは打って変わって優しく笑う。

天..

「余計な事するな。悪魔。」

真・女..

「!？」

天から声が聞こえてきた。

雲が裂け、そこから天使が降りてくる。

天..

「そいつは自分の意志で死のうとしてるんだ。お前等悪魔に止める

義務はない。」

真..

「おうおう、不良天使さん。ウルセエぞお。可哀相だろ。まだ人生先が長いってのに。」

天..

「黙れ!!」

“バギユウ!”

真..

「のお!!」

天使は掌から電撃を出してきた。

真田は何とか電撃を躲す。

真..

「あつぶねえだろ!」

天..

「当たり前だ。狙っているのだから。

オイ女。オレがこいつを止めていてやる。すぐにそこから飛び降りろ。」

女..

「.....」

天使の言葉に女はまた背を向ける。

真..

「！ オイ！ 止めろ…」

“バキュ！”

真..

「ぐぬ！！」

女のもとに駆け寄ろうとする真田に、天使は電撃を放つ。

真..

「テンメエ…そこまでして人間を無くしてエのか！？」

天..

「そうだ。人間さえいなくなればこの世界は俺たちの物になる。自分の意志で死ぬのならば、お前達悪魔に地獄へ流される事もない。良い事じゃないか。」

ニヤリと怪しく笑い天使は真田に言った。

真..

「クソ野郎が…」

天..

「さあ、女！ 早く飛び降りるがいい！」

真..

「止めろ！ お前の居場所ならオレが作ってやる！！」

女..

「…ヤダ…」

天・真..

「？」

女が俯いたまま呟いた。

女..

「私は…死にたくない！」

こちらを振り向いて、女は大声で叫んだ。

真..

「だ、そーだぜ？残念だったな。天使さん。」

挑発的に笑い真田は天使に伝えた。

天..

「そんなの…認めるかァ！」

“バリー！”

天使は女目がけて電撃を放った。

女..

「きゃあ！」

女は電撃により、下に落ちてしまう。

真..

「しまっ…」

“バサバサ”

真..

「!!」

羽音が下から聞こえてきた。

その羽音と共に、大きな黒い竜が上がってきた。

阿..

「まったく…一人でカッコつけようとするから、こうなるんだぞ。」

真..

「あ、阿部!？」

下から上がってきた竜は阿部が召喚した魔獣『阿木竜』だったのだ。

そして落ちてしまった女は阿部の手に抱えられていた。

阿..

「こいつはもう大丈夫だ。存分にその天使を打ちのめせ。そいつは人に手を出したから地獄流しも出来るぞ。」

天..

「!」

真..

「だなぁ…んじゃ、行きますか。」

両手を合わせ、力を蓄める。

真..

「天からの使い、貴様を焼き尽くす!! 黒竜炎!!」

バツと手を前に突き出す。

真田の掌から、竜の形の黒い炎が飛び出した。

天..

「ひ…ぎゃあああ!!」

天使はその黒い炎により焼かれる。

真..

「生きるべき者の魂魄を奪おうとする者よ、己が罪、受けとめ、罰を受けよ!! 地獄流し!!」

“ガパン”

天使の後ろに穴が現れ、天使を呑み込んだ。

真..

「ふう…;; 疲れた…;;」

阿..

「ご苦労さん。ほら、乗れ。帰るぞ。」

真..

「ああ……って、その女連れて帰るのか？」

阿..

「仕方ないだろう。お前が居場所作るとか言ったから。」

真..

「あ……」

阿..

「……馬鹿者が……」

仲間が一人増えました。

《続く。》

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9230a/>

天使を狩る者－エンジェルハンター－

2010年12月11日14時50分発行